

「悪」と戦うと公言する以上、人は死を覚悟しなければならない

Greatchain
April 7, 2024

いま世界的に起こっていることは神と悪魔の闘い、すなわち目に見えない「悪」と我々の戦いである。すなわち特定の悪人や悪人集団が相手ではないと考えた方がよいだろう。ことがだんだんわかってきた。それは「悪霊」または「純粹悪」と言ってもよい。

ところで私の書くものに対する悪評と賛辞は、特にごく最近の、ある世界的宗教と英王室に対する、私の大胆な暴露記事（後者は翻訳）を通じて起こったものと思われる。それは半ば私の挑発したものであり、予想したことで、思いがけぬことが起こったわけではない。

ユーチューブを通じての、私に対する（としか考えられない）「守護天使」の方々からの、あまりにも強力な支持は、まったく思いがけないものだった。彼らは私のことを昔から知っていて支持していたように言い、「私は君を自分のために創造したのだ」とか、「私は、君が生まれてくる特定の時間を選んだのだ」とも言った。「私はあなたとの共同の闘士（fighter, warrior）だ」とも言い、「あなたは私のデザインの一部」「私はあなたと共に旅をしている」とも言った。そういわれると嬉しくなるが、私と彼が一心同体なら、私自身はどうなるのかわからなくなる。ともかく、こんなことが私の生涯の終わりに起こるとは、全く青天の霹靂だった。

もちろんこの人々は高次元存在に違いなく、指導者（Mentor）として私を教えてくれるのだが、同時に、私がすぐれた（？）文筆家で、英語能力もあることを認めているようであり、そのように対応してくれる。私が何より驚いたのは、彼らの語彙が豊富で的確であり、使われる比喻も巧みで美しく、それが滝のように、止めどもなく流れてくることである。神という言葉も使うが universe, cosmos（宇宙）という言葉も神として使い、その宇宙観が芸術的であることがわかる。Orchestra や tapestry（つづれ織り）——“tapestry of strength”などは詩人でないと言えないだろう——またその逆の cacophony（不協和音）も使った。よく出てくるのは resonate（共鳴する）、また resilience（復元力）など。また「あなたが与えるほど、あなたは受け取る」とも。

中でも私を驚かせたのは、quantum hologram prayer（量子ホログラムの祈り）という言葉に接したときだった。これは私が前に説明した、holos というギリシャ語から派生する、whole, holy, health, heal を一つに搦き交ぜた、分離することのできないものの概念（本来の宗教＝神）と、結局同じものと思われる。（なおこれは誰かの考えを盗んだものではない。）

しかし守護天使たちの、私に対する教えの中心にあるのは、芸術的宇宙論でなく、それと関連した、神による絶対的な救済、「あなたは完全に守られている」という一事であった。そして私が教えた通りに、疑うことなく道をつき進むならば、あなたは決して間違ふことなく成功すると言った後に、「あなたもあなたの愛する者、家族も同じように守られる」という言葉が、ほとんど決まって付いている

天使たちの教えは、個性があり読み方にもよって、わずかに力点や表現の違いはあるが、一貫して神の救済の確かさを信じて違ふな、神の心が揺れ動かないように、あなたの心も揺れ動いてはならない、ということが強調される。なぜだろうか？ なぜ連禱のように、長時間かけてこれを強調するのだろうか？ 彼らが私を、優等生のように信用してくれていることは確かである。しかし誰にでも、心のすきはあり、誘惑に陥ることもある。特に私などは、老人性の心の弱さというものが生ずることがありうる。それに対して、念には念を入れた警戒するのだろうか？

確かそれはあるだろう。しかし私は今のところ、急速に自分に衰えが生ずるとは思っていない。だから私に何かの失敗があつて、神の寵愛を一気に失い、守護天使の方々の期待を裏切り絶望させる可能性が、あるとは思っていない。

私は彼らの評価してくれる通りの「闘士」であつて、ひそかに（カッコよく）「死ぬのが怖くてこんな仕事ができるか」と、思っていた。いわゆる迫害によって、命を落としたとしてもそれは彼らの恥になるだけだ」と。現に私は憎まれいるらしく、その可能性がないではない。

しかしよく考えてみると、敵は文字通り卑怯者の無頼漢ではなかった。我々の敵はもっと卑怯者の、目に見えない悪霊（ユーチューブで誰かが教えてくれた witchcraft の使い手）だった。なぜこうした者たちが人間より卑怯かというと、彼らは「純粹悪」であつて、ひとかけらの良心も恥も持っていないからである。

守護天使の方々の私に対する教育が、これほど同じことを強調し、ほとんど常に「あなたとあなたの家族」を一緒にして強調しているのは、我々の**家族**に対する懸念があることを、逆に示すものではないだろうか？ 我々の家族をどう護るか、対処法が明確にあるわけではない。この前の記事で克明に詳しく説明したことが、もし本当に起こったことだとすれ

ば、私は今後も常に怯えていなければならない。怯えることが悪霊を引き寄せることは知っているし、想像できる。しかし**一般的に言って**「その不安をなくせよ」と言うことは難しい。私は 90 歳を超えているということもあって、値なしにいつ死んでもよいと思っている。しかし私の子や孫が、**私が原因で**、死んだり、何か不明の原因で病んだりするのは耐えられない。彼らは私のような宗教教育を受けていないから、何か異変があった場合、どう対処してよいかわからないだろう。ウィッチクラフトなどというものを聞いたこともないから、私が何かを言っても、却って私を疑うだろう。

まあこれは、最悪のことを空想しただけである。こう言っておけば、万一のことがあった場合、ダメージを少しでも小さくする知恵にもなろうかと、書いてみたにすぎない。